

日本老年学的評価研究

Japan Gerontological Evaluation Study

JAGESとは

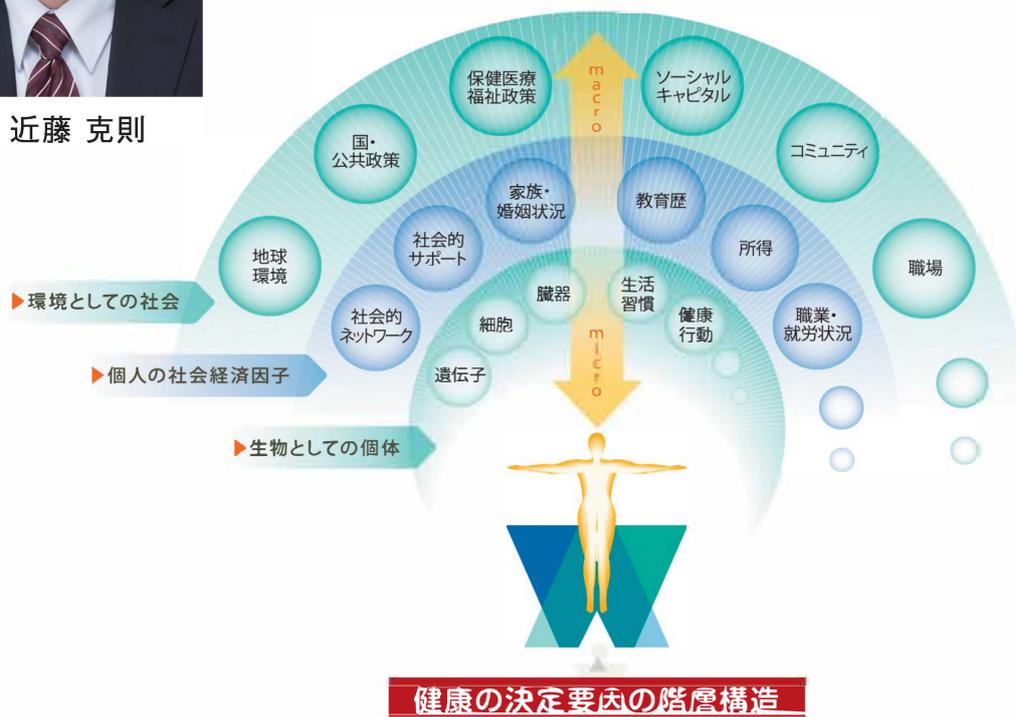
JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクトは、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目標とした研究プロジェクトです。全国40の市町村と共同し、30万人の高齢者を対象に調査し、全国の大学・国立研究所に所属する研究者が多面的な分析を進めています。文部科学省、厚生労働省、米国National Institute of Health (国立衛生研究所) を始めとする多数の研究助成を受けて進められています。



代表 近藤 克則

Well-being (幸福・健康) な社会づくりに向けた社会疫学研究とその応用

社会的決定要因を解明する社会疫学。当プロジェクトではWell-being (幸福・健康) な社会づくりに向け、社会疫学研究を進めています。大規模データを用いた実証研究と、得られた知見を社会に応用するための政策研究や社会への情報発信を行っています。



7

Well-being (幸福・健康)の社会的決定要因の研究

JAGES研究班では、健康格差の問題や、幸福や健康に影響を及ぼす社会的決定要因を明らかにするための研究を行っています。研究成果は行政の政策決定においても活用されています。

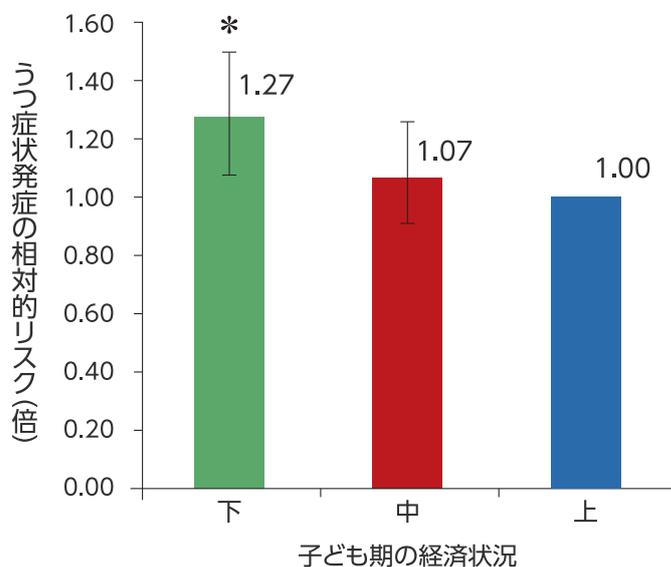
◎研究成果の一例

健康の社会的決定要因・ライフコース仮説

子ども期の社会経済状況低い場合にうつ症状新規発生1.3倍

2010年にうつ症状のない要介護認定を受けていない65歳以上の10,458名を対象として、子ども期の生活環境とうつ症状との関係性を評価しました。平均2.6年間の追跡調査の結果、子ども期の経済状況が高かった人に比べて低かった人は1.3倍多くうつ症状を発症しており、子ども期の生活環境が高齢期のうつ症状にも影響する可能性があることがわかりました。

Tani Y et al. Am J Geriatr Psychiatry 2016
(doi: 10.1016/j.jagp.2016.06.001)



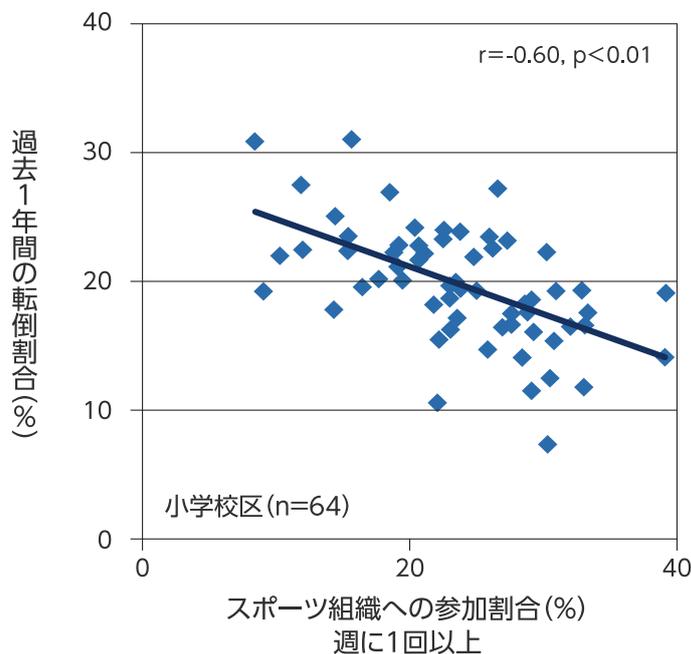
政策研究

研究成果は第47回社会保障審議会介護保険部会資料として活用されました

4倍転びやすいまちがある!!

9市区町村に在住する前期高齢者16,102人を対象に分析したところ、スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、高齢者の転倒歴が少ない傾向に。まちにより転倒率の4倍もの差があることが判明しました。

林尊弘・近藤克則ほか, 厚生指標 61 (7) : 1-7, 2014



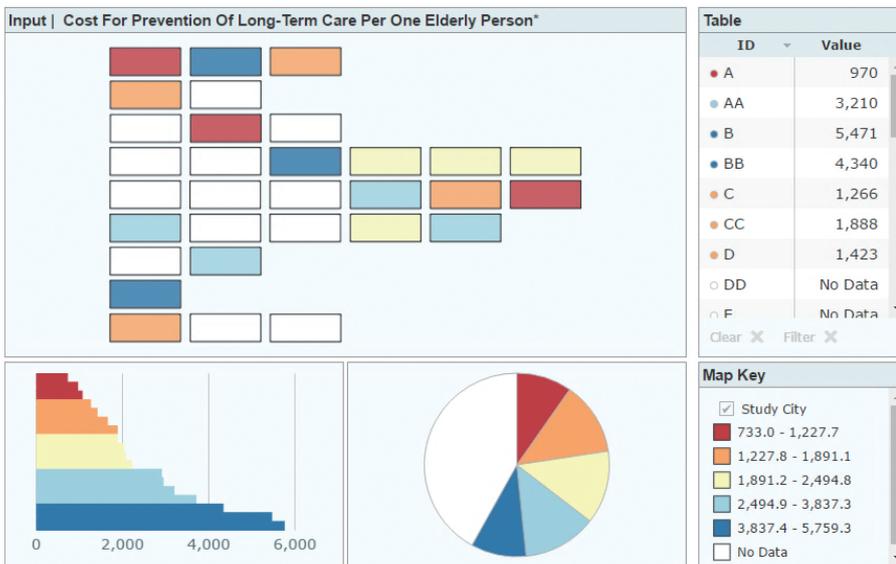
2

Well-being な社会の研究

JAGES研究班では、全国の地方公共団体と共同研究を実施し、健康課題や社会環境要因のベンチマークと地域課題の「見える化」を行っています。WHOとの協働や、国が構築中の「見える化」システムのプロトタイプづくりを担っています。

WHOとの協働 - JAGES HEART -

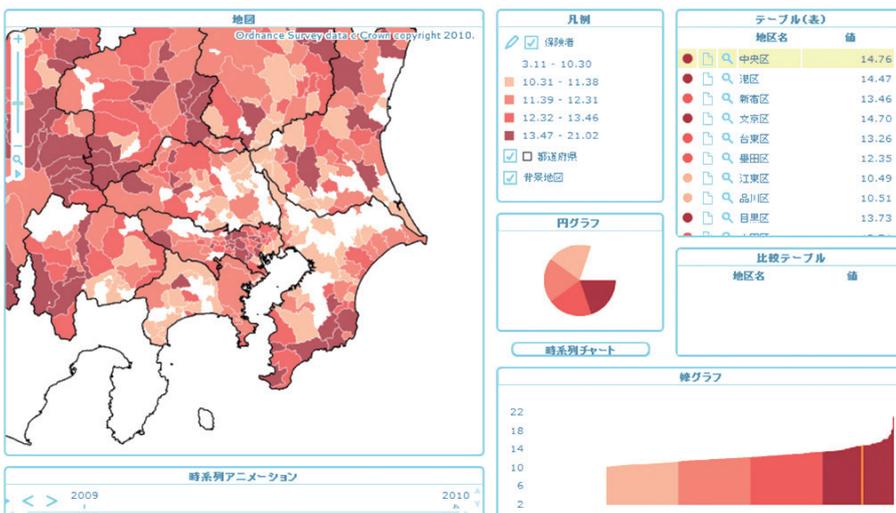
Urban HEART (Urban Health Equity Assessment and Response Tool) for Japanese Older People



JAGESプロジェクトでは、介護保険の総合的政策評価ベンチマーク・システムの開発を行っています。特に力を入れているのが、日本の政策立案者が高齢者間での健康格差について評価・対応できるようなツールの開発。WHO神戸センター(WKC)と協働で、WHOのアーバンハート(都市における健康の公平性評価・対応ツール)に対応するツールの開発を進めています。

<http://sdh.umin.jp/heart/>

厚生労働省 地域包括ケア「見える化」システムのプロトタイプ開発



介護予防事業報告などの情報を「見える化」し、各介護保険者の現状把握を支援するシステムのプロトタイプを開発しました。地域包括ケア「見える化」システム(<http://mieruka.mhlw.go.jp/>)として運用が始まり、関係者の情報共有や他の保険者や全国との比較が可能となりました。

3

Well-being (幸福・健康) な社会づくりへの応用

JAGES研究班では、全国調査の結果をもとに、ベンチマークと地域ごとの課題の「見える化」を行い、その課題の解決に向けて行政と協力して研究を進めています。

日本全国にわたる大規模調査の実施

JAGES事務局本部

国立長寿医療研究センター
老年学評価研究部

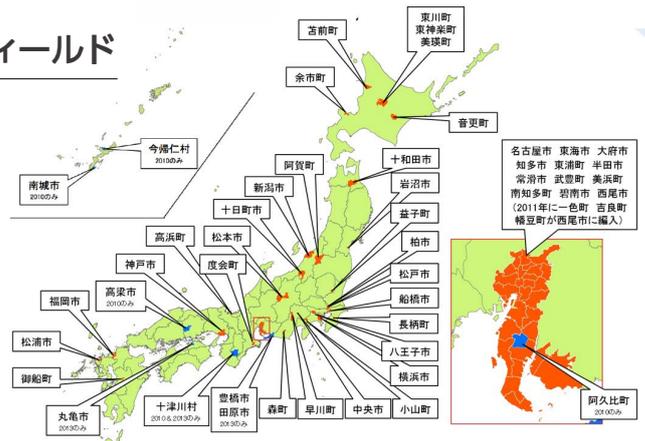


日本老年学的評価研究 JAGES調査フィールド

2016調査協力保険者
過去の協力保険者

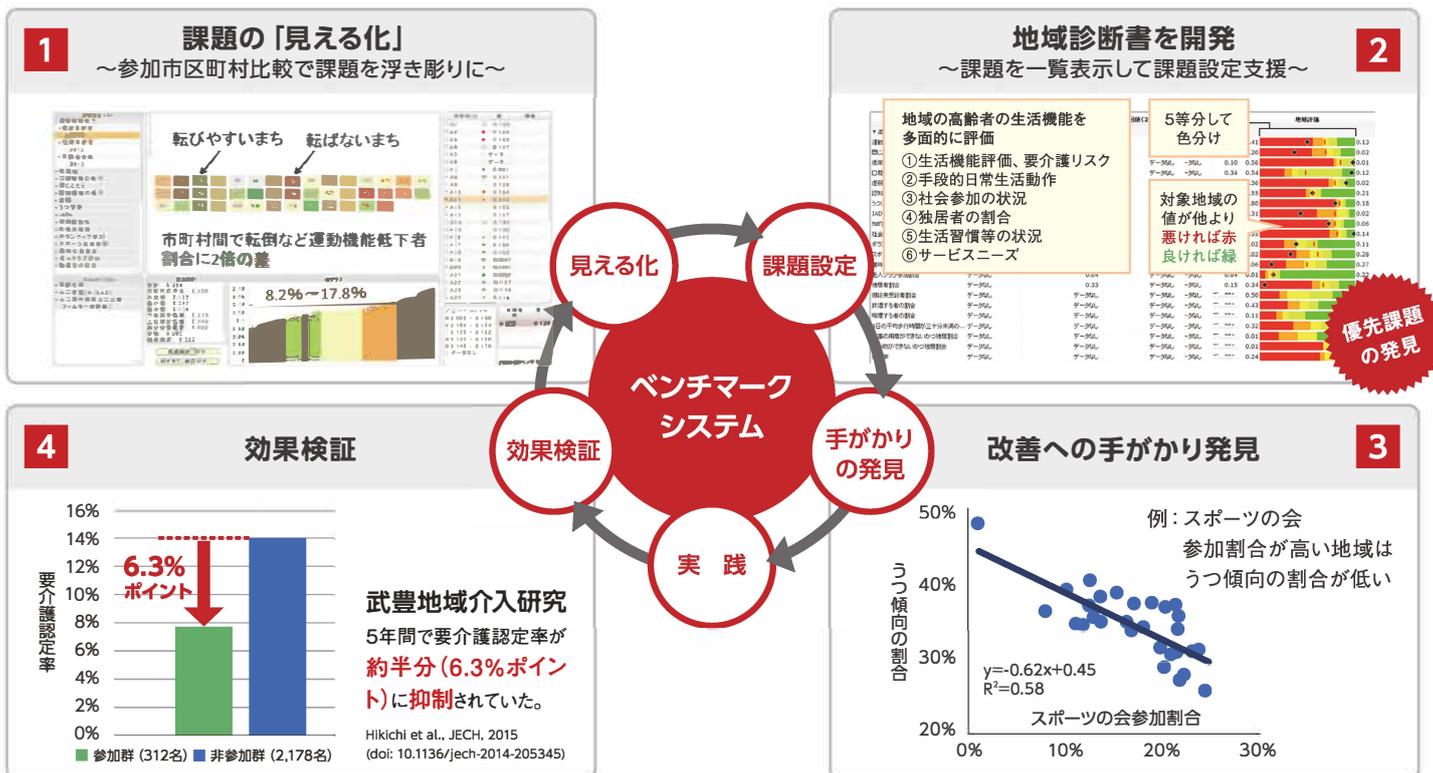
JAGES 2013/14
参加市町村数30
回答数…約13.8万人
回答率…約70.8%

JAGES 2016/17
参加市町村数40
回答数…約20万人
回答率…約70.2%



地域課題の解決に向けPDCAサイクルを回す取組み

JAGES研究班では、地域課題の「見える化」とベンチマークシステムで地域診断、介護予防に資する研究や地域の介護予防事業や健康づくり事業の効果検証によりPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを回す支援を行います。



4

行政担当者の方へ

あらゆる世代の健やかな暮らしを支える
良好な社会環境を構築することにより、健康格差の縮小を実現する

健康日本21(第二次)厚生労働大臣告示

JAGES研究班は上記を地方公共団体が実行するための具体策の支援を行っています。

介護予防に関して、JAGES研究班の大規模調査は3年毎に行われ、
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と同様の項目を含み、介護保険計画の策定に役立てることができます。

日本各地で見える化とベンチマークシステムを活用した地域のマネジメントの仕組みにより、住民主体の取組みが始まっています。

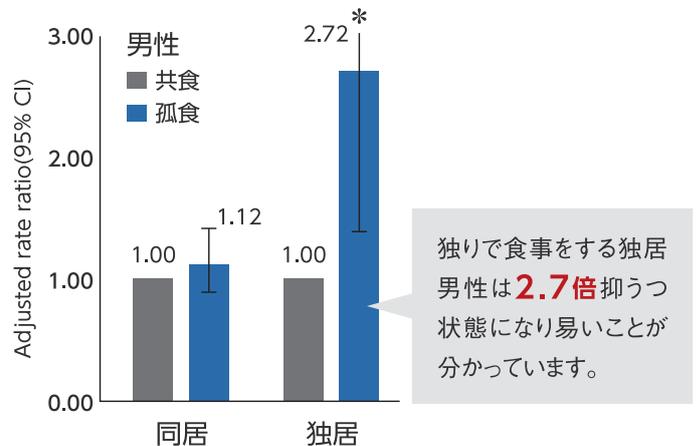
長崎県松浦市の取組み

地域診断により共食の取組みが始まりました。

- 1 平成24年度:松浦市保健師による地域診断
- 2 平成24年度:自治体内の現状・課題・目標の共有
- 3 平成25年度:地域診断結果の共有・意思交換
 - ◎市内全地区の住民(各種団体)
 - ◎地域ケア会議
 - ◎介護予防サポーター養成講座 等
- 4 重点地区の選定・取組内容の決定
- 5 平成26年度:
A地区での高齢者サロン「お寄りませ」開始

愛知県名古屋市取組み

団地住民の孤立防止を目的に団地内でボランティアによる通いの場作りが行われ、お弁当の試食会等が行われました。

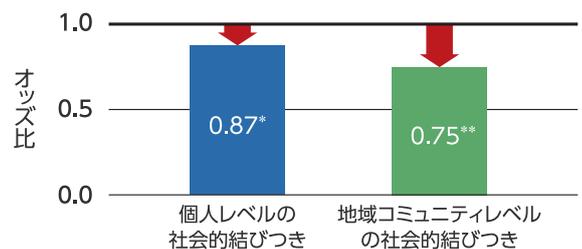


Tani et al. Age Ageing 2015 (doi: 10.1093/ageing/afv145)

災害に強いまちづくり

東日本大震災前の地域の結びつきが
外傷後ストレス障害 (PTSD) の発症を4分の3に抑制

地域の結びつきが強いと被災後のPTSDが少ないと明らかになったことにより、地域の結びつきの強いまちづくりで「人間のレジリエンス」の高い、災害に強いまちをつくれる可能性が示されました。



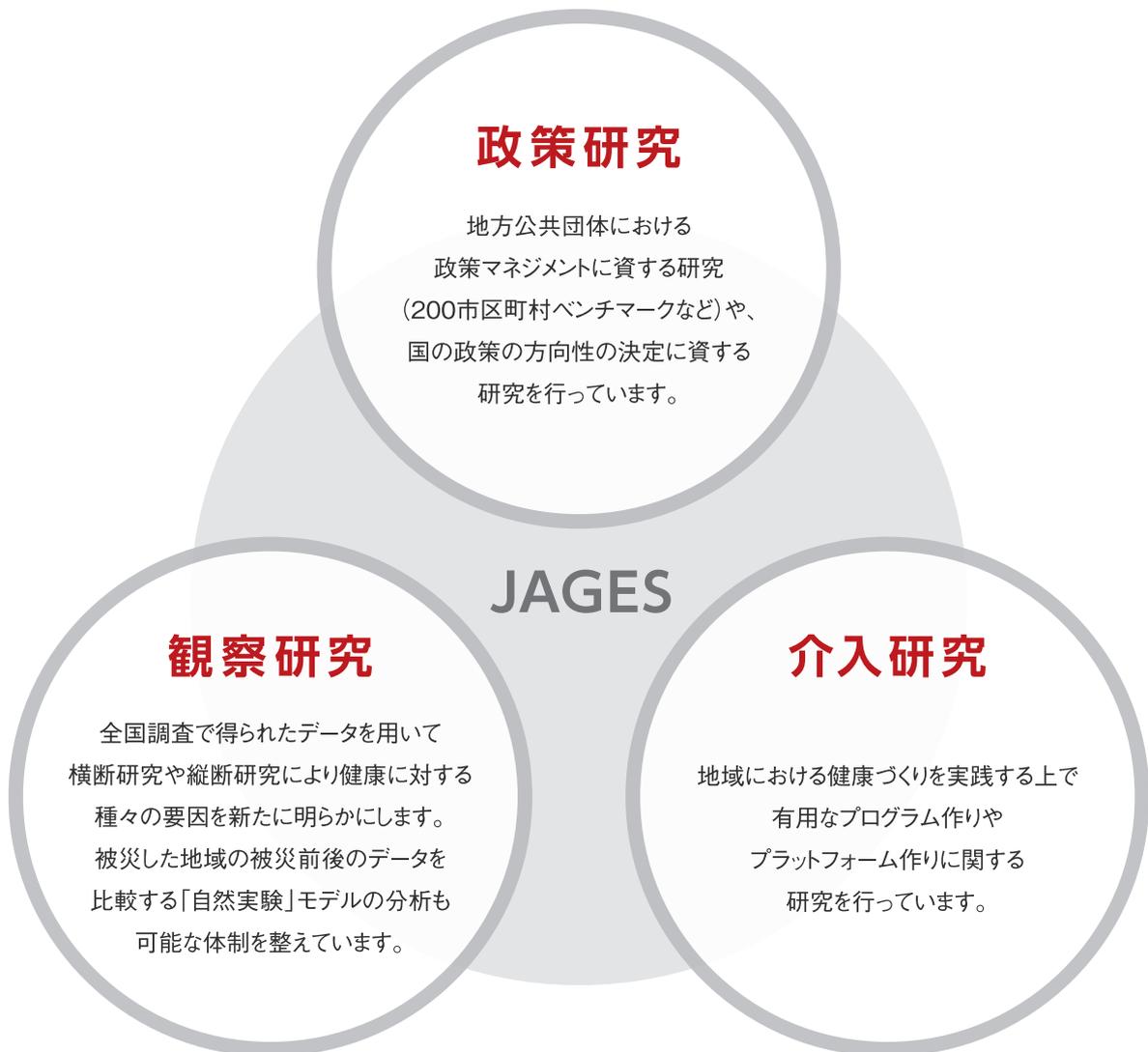
Hikichi H et al. Am J Epidemiol, 2016 (doi: 10.1093/aje/kwv335)

5

研究者の方へ

JAGESプロジェクトで取り組む研究内容

JAGESプロジェクトでは、医歯薬学・栄養学・社会医学・社会学・心理学・体育科学・経済学・建築学他、様々な分野の研究者が一堂に集い分野横断的な研究を行っています。



JAGESプロジェクトは
セミオープンデータ化しています

JAGESプロジェクトは、公的研究助成を受け市町村との共同研究として進められています。公的な財源で収集されたデータですので、プロジェクトの目的に沿う公益性が高い研究計画であれば、データ収集に関わらなかった研究者の方にも申請によりデータ利用をしていただく共同研究に取り組みます。

JAGES研究会

JAGESでは、毎月1回研究会を開催しています。研究内容等にご関心のある方はご参加ください。参加には登録が必要です。ご興味のある方は、admin@jages.net までご連絡ください。

JAGES研究班の研究成果は様々なメディアを通じて発信し、アドボカシー（社会還元や政策提言など）に努めております。

メディア
掲載

NHKスペシャル

2016年9月19日（月）放送

私たちのこれから #健康格差 あなたに忍び寄る危機

代表の近藤克則も出演し、
大きな反響をいただきました。

市民参加型の討論番組「私たちのこれから」。番組の生投票には、過去最高の3万5千人を超える方が参加。「気になるボタン」投票は、89万回を超える反響、そしてツイッター・番組HPからは、放送中1万件に迫る質問・意見を頂きました。

番組ホームページより

■ NHK ニュース (2015.12.21)

「高齢者の歩く割合増の地域ほど転倒の割合減」(長嶺由依子、横田千尋)

■ 読売新聞 朝刊 (2015.12.22)

「被災高齢者3000人調査 近所付き合いでPTSD危険減」(引地博之)

■ 毎日新聞 朝刊 (2016.1.8)

くらしナビ連載企画「家族2016弧をいきる」

「地域の人との支え合いが豊かであれば、うつ傾向の高齢者の割合は低くなる。近隣の人や友人との接触機会を増やす環境整備が、高齢者のうつ予防に必要と考えられる」(佐々木由理)

■ 日本経済新聞 (2016.2.4)

「笑わないお年寄り」「健康状態良くない」1.5倍東大など調査」(林慧) その他多数

書籍



健康格差社会 医学書院 (2005/9/1)

格差社会はなぜ健康に悪いのか?健康教育や介護予防はなぜうまく行かないのか?結婚はなぜ健康によいのか?健康によい社会・経済政策とは?生物・心理・社会モデルと社会疫学で解明する健康社会実現のヒントに満ちた本。



健康格差社会への処方箋 医学書院 (2017/1/30)

社会・経済的因子による健康格差の実態とその生成機序を「健康格差社会」の言葉で明らかにし各界にインパクトを与えた著者が、その後の研究や社会の動向を見つめ、「どうすべきか」を示す「処方箋」。

格差の要因を示すだけでなく「格差対策に取り組むべきか」という判断の根拠をも提供し、その上で国内外で実証されつつあるマイクロ・メゾ・マクロレベルの戦略を紹介する。医療政策関係者や公衆衛生関係者にとって必読!の一冊。

厚生労働省、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、 日本学術振興会等からの研究助成

- 研究代表者:近藤克則、平成25年度厚生労働省老健局老人保健健康増進等事業
課題名:「日常生活圏域ニーズ調査データを活用した地域診断支援システムの開発に関する調査研究事業」
- 研究代表者:竹田徳則、平成27年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
課題名:「ポピュレーションアプローチによる認知症予防のための社会参加支援の地域介入研究」
- 研究代表者:近藤克則、平成28年度 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業)
課題名:「介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究」
- 研究代表者:尾島俊之、平成28年度厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
課題名:「認知症発生リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究」
- 研究代表者:近藤克則、平成28年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構(パーソナルヘルスレコード(PHR)利活用研究事業)
課題名:「介護予防政策へのパーソナル・ヘルス・レコード(PHR)の利活用モデルの開発」
- 研究代表者:近藤克則、平成27年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構(長寿科学研究開発事業)
課題名:「地域づくりによる介護予防を推進するための研究」
- 研究代表者:近藤克則、平成23~27年度科学研究費補助金基盤研究A
課題名:「社会的排除としてのwell-being格差とソーシャル・キャピタルの研究」

その他多数

National Institutes of Health (NIH, 米国国立衛生研究所) からの研究助成

Department of Health and Human Services, National Institutes of Health, National Institute on Aging
Research Grant Number 1R01AG042463-01A1.

Principal Investigator: Ichiro Kawachi.

Sub-contract Principal Investigator: Katsunori Kondo.

Project Title: Impact of social cohesion on functional recovery after earthquake and tsunami.

Project Period: 07/01/2013 - 06/30/2018.

.....

- Hikichi H, Aida J, Kondo K, Tsuboya T, Matsuyama Y, Subramanian S, Kawachi I : Increased risk of dementia in the aftermath of the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami. PNAS 2016 113 (45) E6911-E6918 doi: 10.1073/pnas.1607793113
- Yazawa A, Inoue Y, Fujiwara T, Stickley A, Shirai K, Amemiya A, Kondo N, Watanabe C, Kondo K: Association between social participation and hypertension among older people in Japan: The JAGES Study. Hypertension Research 2016 Jul 7. doi: 10.1038/hr.2016.78
- Tani Y, Fujiwara T, Kondo N, Noma H, Sasaki Y, Kondo K :Childhood socioeconomic status and onset of depression among Japanese older adults: The JAGES prospective cohort study. Am J Geriatr Psychiatry. 2016 Sep;24(9):717-26. doi: 10.1016/j.jagp.2016.06.001.
- Tani Y, Kondo N, Nagamine-Takahashi Y, Shinozaki T, Kondo K, Kawachi I, Fujiwara T :Childhood socioeconomic disadvantage is associated with lower mortality in older Japanese men: the JAGES cohort study. International Journal of Epidemiology, 2016, 1-10,doi: 10.1093/ije/dyw146,Original article.
- Hikichi H, Aida J, Tsuboya T, Kondo K, Kawachi I: Can Community Social Cohesion Prevent Posttraumatic Stress Disorder in the Aftermath of a Disaster? A Natural Experiment From the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami. Am J Epidemiol. 2016 May 15;183(10):902-10. doi: 10.1093/aje/kwv335.
- Yamamoto T, Aida J, Kondo K, Fuchida S, Tani Y, Saito M, Sasaki Y: Oral health and incident depressive symptoms: JAGES project longitudinal study in older Japanese. Journal of the American Geriatrics Society. Journal of the American Geriatrics Society, 2016 doi: 10.1111/jgs.14777
- Koyama S, Aida J, Saito M, Kondo N, Sato Y, Matsuyama Y, Tani Y, Sasaki Y, Kondo K, Ojima T, Yamamoto T, Tsuboya T, Osaka K : Community social capital and tooth loss in Japanese older people:a longitudinal cohort study. BMJ Open. 2016 Apr 5;6(4):e010768. doi: 10.1136/bmjopen-2015-010768.

他,国内外問わず多数